

議長（村松 積） 休憩を解き再開をいたします。

午前中に引き続き一般質問を行います。

金 田 憲 治

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、質問を許します。登壇願います。

3番、金田憲治君。

3番（金田 憲治） 3番、金田憲治です。

通告に基づきまして、2つの質問をし、村長の方針等をお伺いいたします。

第1番目ですが、地域経済の活性化についてお聞きいたします。

2008年、平成20年の9月のリーマンショック後、世界経済は100年に一度といわれる大不況に陥り、日本も不況の波に飲み込まれております。国・県では、経済の安定と雇用の確保のため、度重なる財政出動を実施しております。その成果が数値として出てきているとの報道もされていますが、雇用情勢が好転しないなど、2番底を心配する論評もあり、楽観はできません。

飯田下伊那地域を見ますと、雇用情勢は1月の月刊有効求人倍率が0.55と厳しく、飯田市が行った中小企業経営実態調査や飯田信用金庫が出している景況IDなどの発表を見ますと、まだまだ不況の中にあるというように思います。

村内の事業者にお話をお聞きしますが、「景気が良くなったとの実感がなく、先行きに光が見えない」との答えがほとんどでございます。

そこでお聞きいたします。昨年来、経済対策のため、国・県が度重なる財政出動を実施されましたが、下條の実施総額はどうか。そのうち村内業者への受注額はどのくらいになるのかをお聞きするとともに、下條村の現状をどのようにとらえられているか、村長にお伺いいたします。

次に、本村のセキュリティー対策であります。安心な暮らしをおよぼかす事例が身の回りにたくさんあります。電話での振り込み詐欺や訪問販売による押し売りの被害、児童生徒の下校時でのいたずらや誘拐なども地域によってはあると。それから新型インフルエンザなど、インフルエンザの感染などさまざまですが、その犠牲者は高齢者または小中学生といった一般的にいわれます社会的弱者に多く見られております。これらの被害から守

るのは、個人個人の防御がこれは基本になると思いますが、制度や組織、そして地域などの総合的なセキュリティーにより、安心安全な社会にしていかなければならないと思います。

今回、消費者にかかわるセキュリティー対策についてお伺いをしたいと思います。

飯田消費者センターで受け付ける苦情、相談件数は、平成16年度を同ピークにして減少してきておるようですが、平成20年度では2,700件程度と伺っております。そのうち主な特殊販売の年齢別相談内容を見ますと、通信販売は働き盛りの30から50代前後。それから訪問販売、マルチ商法、催眠商法は、高齢者に多い傾向があるとのこと。消費者のトラブルが年々複雑、多様、巧妙化していく状況の中で、消費者の安全生活を確保するため、昨年消費者庁が発足されました。これにより、地方消費者行政が充実され、環境整備が図られていくものと思います。その中で消費者の苦情は、一番手短な市町村が窓口になって、被害等の拡大を防止しようとしております。本村は今後、高齢人口が増えていますし、良き風土である住民による監視状況の弱体化などによって、セキュリティー対策の強化、充実が望まれるところでございます。

そこで最近本村に寄せられた苦情の内容について、どのようなものがあるお伺いし、また今後村のこういった村のセキュリティーに対する対策についてもどのように取り組まれるかお伺いをいたします。

以上で質問を終わります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） 金田議員の質問にお答えいたします。

最初に昨年度、国・県が実施している補正予算のうち、下條村で実施した経済対策分の総額はということでございますけれども、国・県の実施している補正予算という言葉がございまして、国と県と話をすることと、県から下條へくることとは全然別でございまして、県は国の臨時交付金を受けて、県独自の補正予算を組んでやっておるということでございまして、村には県の補正予算分は関係ございません。これはご承知のとおりだと思います。

それから経済対策として、どのくらい使ったかということでございますけれども、これは当然でございます。雇用対策も、それから緊急何とか対策も、それから地域公共事業何

とかも、いろいろきめ細かな名前がついておるわけございまして、それが3億3,800万円くらいトータルできております。それはすべてそういうための公共、要するに景気抑制だとか、雇用増進だとか、それから民衆安定、これみんなこの活性化事業に結びついておるわけございまして、あえていうならば、それ分類しなさいという方が無理でございまして、それぞれ微妙にリンクしておるわけございまして、あえていえといえれば3億3,800万円があるのかなと思っております。

そのうち村内業者へどのくらいの発注したかということでございますけれども、これも難しい話でございまして、基本的には100万円以上の工事はこれ条例によって入札しなければいけない。そして例えば建築にかかわるもの、電気にかかるものに対しても、村でもできるだけ村内業者を資格の関係もあるわけございまして入れています。土木工事では強いわけでございますけれども、建築それから電気ということになりますと非常に弱くてやられてしまう。これは希望的にも実績的にもそれから工期的にも非常に問題があって、できないという問題もあるわけございまして。

そこでせいじゃ村は外すかという、できるだけ村内の業者に、例えば建築なら生地やらしてやってくれよとか、基礎をやらしてやってくれとか、水回りをぜひ頼むぞとか、できることは全部やるようにして一部下請けのような場合もあるわけございまして、複雑に取り組んでおるわけございまして、いくらであるかという答えは出ません。基本的には、村内業者のためにできるだけこっちの方でも異常干渉するくらいやっておるわけございまして。

それから村独自の経済活性化施策の強化を充実する考えについてということでございますが、これも難しい問題で、朝昼晩この問題だけについて、全国の1,740の市町村がこれでまねくりかえてやっておるわけございまして。今やっておることがすべてといえればそういうことございまして、それでも納得いかないということになれば、今予算審議やっておる中で、国が官僚、鳩山さんも菅さんも今日本の当面する問題どこだといったら3つありますと。1つは、人口減少社会をなんとしても止めなければいけないということをやっております。その次が少子化対策、これやらなければいけない。3番目がいつも言っておるように、財政規律をきっちりして、そして財政破たんをきたさないようにデフォルト、要するに国債を発行したけれど、国債の償還来ても払えんようになる。今ギリシャ

もそうでございますし、ポーランドもそうかな、非常にユーロ圏が危なくなっておりますけれども、それにきてしまっはしょうないぞということで、3大3つのこの注意すべきものを重点的にやるということで言っております。

そういう面から見れば、下條村はずっと昔から18年前からその3つに対して徹底してやっておるわけございまして、その成果が出て今どなたか申されましたけれども、全国の自治体、町村の中で900の町村の中で300を超す自治体が、今でも引切りをきりなし来ております。総務課へ来る電話もそうございまして、「市は受け付けません」とか、「その日はいっぱいです」とか言って断っておるんですけれども、そういう状態であるということでございまして、ここの中でどう考えておるかといったって、これしか答えるわけにはいかないわけございまして、国の3大政策にこれは私どものやっておる政策が村の政策が国が後をついてきているだけでございまして、人口減少社会、今のところ止まっております。これは大変なことございまして、今長野県も私どもずっと220万県民ということで誇っておりました。今、215万人にならんとしておるわけございまして、平たくいえば駒ヶ根市が1つの市が飛んでいっちゃったということが同じございまして、長寿化社会の中で長寿化社会の中でまた人が減っていくと。子供が生まれません。私はいつも言っておるんです。2050年には今は騎馬型で3人で1人が高齢者を支えておるけれども、今度は2050年になると肩車式で1人が1人をおぶさっていかねばならないと。これは現実でこれ数字から出してみれば、例えば去年日本中で何人生まれたということ。子供さんは20年たったならそれより減ることはあるけれど、増えることがないわけで、これは数字で読めるわけございまして、その予測からやってみれば歴然としております。

それで人口増やさなければ仕方ないと、急務だということでございまして、少子化も前から担当大臣誰々なんて女の人呼ばってやっておるけれども、なかなか一朝一夕には。

子供を増やすにどうすればいいかと、そんな方策はないわけございまして、総合政策の中でボトムアップして、ここなら暮らしてもいいな、ここなら子供産んでもいいな、これだけコミュニティーのあるところなら、ここで生活したいなと、若者がそういう雰囲気にして、さあ子供を産んでくださいよといわにや家を建ててちょっと若者呼べばいいといったってこれはくるはずがないわけございまして、そういう総合施策を村民の皆さんまた

は議会の皆様のご指導をいただいて今日まで積み重ねてきたわけ。

そして財政規律もそうでございますけれども、ばかみたいな今までの行政のバーチャルの本当に自分では行動しなくて、もう議論ばっかしておるような行政組織ではだめでございます。行政自らが自分でやれとやりましょうということで、全体の奉仕者として皆さんは使命感があるんですよ。その代わり身分は保障されておるじゃないかと。福祉だ住民福祉だというけれども、ある学者が言った。「身分がどんな社会になっても守られておる、これ以上の福祉というのはどこにあるんだ」というようなことを討論会で言われておりましたけれども、私はそうだと思う。そしたら身分は守られて、それべくの給料をもらっておったら、皆さんは一般社会並みに働いて、全体の奉仕者として頑張ってくれにゃ困るぞということを書いて書いて言い続けました。

今できたから言うわけじゃないんですけれども、当時あの平成4年5年なんていうのは、もう職組様々でございまして、手が付かない状態の中で彼らは民間に研修に出した時には、「いや、こんな社会があるのか」ということで、立ち直らんのも2～3人おったけれども、たちどころに直っていただきました。そして今日彼らが一生懸命やる。村民の皆さんもそれを見ておって、我々もうかうかしちゃおれないぞと。まず隗より始めて、隗が能書きばっか言って会議ばっかやっておっちゃこれどうしようもないわけでございます、そうじゃないと。目つきが変わってやり出した。それに村民の皆さんも共鳴して「それなら我々もやりましょう」ということで、材料支給事業なんかもやっておってくれるわけ。そうなれば放っておいたって、財政規律はきちんとするわけでございます、今も少子化は止まっている。女性生涯出生率は2.04ということで、これは県下1番。これ5～6年1番でございますし、財政規律の良さといったら軽井沢には若干負けるけれども、県下で2位というのずっと続けておるということでございます。

議会の中で「もっと使う判断をしろ」なんて冗談とも本気ともつかぬことを言うんですけども、必要なものはいくらでも使いますよということで今やっておるところでございます。

これが短期的な瞬間風速で何をやっておるか、そんな次元の低い話でなくて、こうした大きい目標に向かって、私は最初にも申しましたけれども、今年の参議院選挙を目指してスタンドプレーやっただがたやっただがた、そんな良くなるはずがないわけでご

ざいまして、下條村の進むべき方向、国の進むべき方向というの明確にして、それに向かって燃えるような情熱で、みんなまとまってやるところに今日の下條村がある。だからそんなところはないから視察にくると、こういうことでございますので、それしかお答えがしようがないと。

やたら活性化のためにどんな区分ができるかと、そんな生やさしいものでなくて、分類、予算の中でも分類するというようなたまたましておかなければいけないだけであって、その使われる予算が無駄だとか、固定費にあまり使わないように投資的経費に使う方式を常にとっておらなければならない。そういうことから言えば、これからどう考えておると、今までのとおりのやっていく以外にはないわけでございます、ぜひまた金田議員。

それで妙案があったらお出しただいて、この前もお願いしたいと思うんですけども、どうなんだということより、「俺はこういうことを考えておるけれども、一步踏み出してこうこうこういうわけでここまで考えておるけれど、村長どう思う」と、こういう話だったら「それはいい意見だ」ということもあるかもしれんし、その考えは私どもは7～8年前にやってみて、こんな問題もありこんな問題もありこんな問題もありやめましたとかいうことで、今の論議がくっと格段とレベルが上がってくるということなんですけれども、どう考えておる、どうするんだと、これはあまり今のこの次元の高い議会制民主主義の中ではちょっと古い形のものであるかなと。その必要なんですけれども、ぜひ具体的にまたひとつ出していただければ私どももお答えするにも楽だということでございますし、いいものであれば瞬発を入れずに私どもは実行してまいりたいと、これが本当のメリハリのある行政であろうかと考えておるわけでございますので、ぜひそんなことでご理解いただくようお願い申し上げます、答弁といたします。

セキュリティーの問題、これは今申されたようにいろいろあります。これも複雑怪奇でございまして、実績だけ申し上げます。平成13年度が1件。20年が3件。21年が17件あります。その中で契約してしまったのが18年は0。20年が1件。それから21年が9件でございます。これだけ契約してしまったということでございます。

これなかなか難しいものでございまして、できたという情報が入ればすぐクーリングオフを行います。それでほとんど解決しております。クーリングオフできなかったというのは、判断能力の欠ける人がこちらから通信販売に申し込んでしまったと。それで花の種だ

そうでございますけれども、1年分だかなんだかそのセットで送り、それを1つだけ袋切っちゃって、その袋の分だけは仕方ないということで払ってもらったことがあるということと、もう1つは布団でございますけれども、なんか高価な布団を買ってしまって、それに高価な布団と金額が高価だけでございますけれども、それについておる景品をちょっと破ってというか袋やって、1万円ばかりの景品をいじくって使ってしまったということなんでその1万円は仕方ないけれども、あとのすべてはクーリングオフで返却しております。

ありがたいことに、金銭の振り込み詐欺というのはなかったということでございまして、これが一番ありがたいことと同時に、今度は宮下駐在さんがまたおっていただけるということで、私ども個人的にも阿南署行って「あれは非常にいい」今度も所長さん変わりました、これは悪い話じゃないであいさつに来ていただきました。開口一番私「皆さんは異動があったんですけれど、宮下駐在さんまさか異動はないな」と言ったら4年目に今度入るそうでございますけれども、なかったそうでございます。常に何とか置いていただきたいということでございますけれども、こそ泥だとか、それからあれ非常にくまなく村内を回っていただいて、情報は非常に収集されております。皆さんの情報ももし必要なら聞いてやってもいいんですけれども、私のことで私が知らんような情報も正確に知っております。

そういうくらいやっておっていただいて、鼠小僧次郎吉の事件もあったりいろいろするんですけれども、必ず捕まえておっていただくということと同時に、行政にその情報を入れていただける。だからクーリングオフもいろいろやりやすいということでございます。

それから駐在さんもときには干渉しておっていただきまして、刑法第13条に不退去罪。要するにSS商法でも何でもうちいって「もういらんいらん」といっても、いつまでもそのうちにおり続ける。その場におり続けるということになると、刑法13条で警察の出番があるわけでございますので、そんなものもときには振りかざしてというか、利用してやっておっていただくということでございまして、ありがたいことかなということと同時に、セキュリティーというのは、やはりみんなの目の監視がなければ駄目でございます、過去にはこれも話したと思うんですけれども、3階の協議会室であつたら、どうもあのとうやどの辺で変な車がちらちらしておると。すぐ行ったらまさにそうございまして、議員の皆さんもなかなか協議会をしながら外の景色も見ておっていただけるんだなということで感服した次第ですけれども、やはりみんなの監視の目というのも必要ではないかと。

これからも薄れていくというんですけれども、薄れつつあるけれども、下條まだまだコミュニティが非常に行き届いておる。それで安心することなく、これからも頑張っってそんなことには対応していくつもりでございますので、よろしくお願ひします。

以上で答弁終わります。

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、再質問ありましたら。

3番、金田憲治君。

3番（金田 憲治） ただいま答弁をいただきました。

こちらの方の下條の方に経済対策または雇用状況で3億3,000万円余と、こういうようなお金が入ってきて、今下條があるのは総合施策でやってきてこういう状況になっているんだと。これはもう十分承知をしておるところでございます。

ただ、今回の中にもその経済対策だとか、そういうような中にも、どちらかという金額が多くなりますとこれ入札制度でどうしても専門性のものが出てきて、なかなか下條の方の業者には落ちないということもありまして、こういう中からいけばもう少し小さい工事で、例えば環境が非常に先ほどからいろいろ各議員から出ておりますので、環境に優しい幅広いその省エネ関連のようなものを例えば消費した時には、そういうものをある程度ポイントでやるとかそういうようなものとか、またはプレミアム付きみたいな商品券というの、今250万円ほど予算で盛られておると思うんですが、そういうようなものももう少しこういうふうな範囲を広めてもらえないかどうかとか、いろいろなところで下條に落ちる方法はなんとかないもんかなとこう考えているところでございます。

また、状況を見て、非常にだんだんだんだん苦しくなっていることは確かだと思ひますので、非常に今基金の方も徐々に増えて、これ見ますと本年度末にも40億円というようなことで、今はまさにそういう経済的にいえば大きな曲がり角に来ているかなというように感じますので、その辺をどうお考えになっているか。できればこういういろんな施策の中でやっていったらどうかなと思ひます。

それからもう1つ、セキュリティーに関しては、村長さん言われましたように、ちょっとやっぱりこの21年度になってちょっと件数が増えたかなというように気がします。それでも駐在所さん等に聞けば、または消費者センターに聞けば、「下條は少ない」というのが特徴のようでございます。これは非常にありがたいことかなということでもありますの

で、本当にこれかかれば、引っかかれば本当に非常に被害もありますので、ぜひ1つこの推進もお願いをしたいというように思っています。

第2回目のこれで質問を終わります。

議長(村松 積) 伊藤村長、答弁願います。

村長(伊藤 喜平) 議員ご承知のように、これ湯水のごとく出るんですけども、補助金が、補助金の規定というのがございます。何でもその金で何に使っていいということではなくて、これとこれとこれには使ってください、これとこれとこれに使ってください、これとこれには使ってくださいと。それ以外は駄目ですよということと、当然これ会計検査もあるわけでございますので、やたらめったら使えないということをご承知のとおりだと思います。

その中で、とにかく将来において、今このいい時期にやっておかなければならない物件については、今取り入れております。小さな細かい物件というのはそのときにまた考えればいいわけでございますして、取捨選択をして、あとになって全部村単でなければこの5,000万円の仕事はできませんよ、2,000万円の仕事はできませんよというときに当たるとしても仕方ないわけでございますので、そういう方をきっちり固めてやっておるということでございます。

それからSS商法でございますけれども、21年には7件ありました。これは団体で押して、そしてそこでいろいろの電気かけて効くとか、こういうふうな賞品がつくよとかとってばばとやっちゃってSS商法の特徴でございますして、そのムードにさせておいて、さあどうだとやって、7人が引っかかってしまったということでございますけれども、実被害は1万円で済んだということでございまして、これからもその情報が早く。いくら行政で見ろ、行政で目を監視しておれ、駐在さんが全部目を監視しておれということでなしに、多くの人の目でそういう情報を入れてもらって、どうもあのおばさんおかしいぞとか、郵便局なら振り込みが来たらどこだとかいうこと、相当今具体的に聞いておるらしいわけでございます。聞いておっていただけるわけございまして、これは言ったようにみんな監視をしなければいけないということと、それからそのポイント制ですけども、これもなかなか難しい問題がございます。今回、商工費に対しても地元で1割引でやる予算もある程度増やしたつもりでございます。これも第2段第3段は正確に知らせてくださいよということでございますので、そんなことでも下條村で飯田で買うより下條が1割安いじ

やないかと。1割高けりゃ同じですけども、そんな問題もあってケースバイケースでやっております。

農業につきましても、ケースバイケースで必要とあらば用水路等についても積極的に出してあるわけでございますので、その辺もご理解いただきたいと思ひますし、環境につきましても地元から申し出のあった特に地元の北又ですけども、最初トイレ直してもらった方がいいんじゃないか。そのうち農業の倉庫もなくなって、広い敷地ができたじゃないか。これをどうするかというだもんで、当時の区長さんが建設委員になって、そしてこの前向きなお願いしてくれと、前向きな提案してくれということで、前向き過ぎちゃってちょっと金かかっちゃったんですけども、神社境内の木を整備したり、公園を作ったり遊具を入れ替えたり、東屋作ったり、いろいろやったが今見違えるように良くなっております。

特に保育園の横ということでございまして、保育園の園児もあそこで至近距離でございますので、大いにあれも使っていただいて、公園を使わないということはもったいないことでございますので、そんなことをして整備をしたつもりでございます。

そうした前向きな提案に対しては、私どもも余裕をもってというか、余裕というかよく判断させてもらってやっていくつもりでございますので、ご理解いただきたいと思ひます。

議長（村松 積） 3番、金田憲治君、再質問は。

以上で日程第4、一般質問を終わります。